

2023 年度事業報告

1. 総括報告

2023 年度は、コロナ禍以前の日常の風景を取り戻すことができたが、進行する円安や物価高、緊迫化する国際情勢など、先行きに不透明感の漂う 1 年となった。

我が国の景気は緩やかに回復しているとされ、企業収益や業況判断は総じてみれば緩やかに改善し、シャッター・ドアの出荷量も底堅い動きとなった。一方で、鋼材価格はなお高止まりし、建築着工や住宅着工は弱含みとなっている。

このような状況の下、当協会では、会員各社と連携し、2023 年度事業計画に基づき、主に次のような事業を着実に実施した。

調査研究普及事業では、技術基準類の制定・改定、製品安全への取り組み、各種調査の実施など情報の収集・提供等を行った。

評定登録講習事業では、所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録並びにシャッター及びドアに係る人材育成等を行った。

ストック対策として、重点的な広報活動を展開するとともに、引き続き、防火設備検査員講習の実技講習を着実に実施し、検査員の実務能力向上のためのWEB講習を継続実施した。

また、シャッター施工者の確保・育成、施工品質の向上を図るため、シャッターの施工者を対象に、技能検定制度の導入に向けた取り組みを進め、先行する協会資格としてシャッター施工技能者資格認定試験を開始した。

さらに、浸水防止用設備の普及を図るため、技術標準の検討を進めるとともに、広報活動を実施した。

なお、感染症防止の観点から中止を余儀なくされていた総会后懇親会、新年賀詞交歓会等は 4 年ぶりに再開することとなり、会員及び関係者間の交流の機会を回復することができた。

当協会が 2023 年度に実施した事業の概要は、以下のとおりである。

2. 調査研究普及事業

(1) 技術基準類の策定

①技術基準類の策定、改定

- ・軽量シャッターの技術基準を策定した。
- ・グリルシャッターの技術基準を策定した。
- ・鋼製建具・鋼製軽量建具の技術基準を策定した。
- ・耐火クロススクリーンの技術基準の改定に向け、各基準を検討した。
- ・浸水防止用設備建具型の施工基準を検討した。また、同パネル型の技術基準及び設計基準を策定した。
- ・一般社団法人日本火災報知機工業会等と共同で、煙・熱感知連動機構・装置等の設置及び維持管理に関する運用指針を改定した。

②シャッター関連 J I S への対応

- ・一般社団法人日本サッシ協会と共同で、前年度策定した窓シャッター J I S 原案を基に、J I S 制定に向けた取り組みを進めた。
- ・オーバーヘッドドア J I S の改定に向け、原案作成委員会を設け、J I S 改定原案を検討した。

(2) 製品安全への取り組み

①事故情報の収集・分析、安全対策の検討

- ・事故情報の収集・分析を継続的に行うとともに、シャッター・ドア等安全対策検討委員会（委員長：河野守 東京理科大学教授）において、事故発生原因及び防止策について検討した。
- ・経年劣化による事故の事例を紹介するコンテンツを作成し、ホームページに掲載した。

②耐火クロススクリーンの設置に関する自主管理

- ・耐火クロス製防火／防煙スクリーンの設置に関する自主管理の確認（7社）を行った。

(3) 維持管理における安全対策の推進

①製品安全普及事業の推進

- ・シャッター・ドアの適切な安全確保及び維持管理を呼びかけるチラシ・ポスターの作成、ホームページへの注意喚起事例の掲載を行い、点検の日（6月1日）、安全の日（9月1日）を中心に、定期的な保守点検の実施や危害防止装置等が未設置のシャッターの解消を図るための取り組みを進めた。

②防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格制度の推進

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習を実施するとともに、同保守点検専門技術者の新規認定、資格更新を実施した。

③防火設備定期検査報告制度への対応

- ・防火設備定期検査報告制度に関連して、一般財団法人日本建築防災協会の委託を受け、防火設備検査員講習の実技講習を実施した。
また、同協会の学科講習テキスト及びWEB講習用ビデオの改定に協力した。
- ・防火設備検査員を対象とした、実務能力の向上を図るための実践的なWEB講習を実施した。

(4) 資料収集・普及事業

①シャッター・ドアの市場及び用途に関する調査

- ・2022年度調査の集計・分析を行い、過去10年のデータを会報で公表するとともに、2023年度調査を実施した。

②労働災害発生状況調査

- ・2022年度労働災害発生状況調査をまとめ、会員に報告するとともに、2023年度調査を実施した。
- ・労働災害発生防止スローガンとして「墜落・転落の防止」を前年度に引き続き掲げ、会員に対して労働災害発生防止の周知を図った。

③元下請取引実態調査

- ・2022年度元下請取引実態調査の集計・報告を行うとともに、2023年度調査を実施した。

④防犯製品に関する情報収集・提供

- ・防犯5団体普及促進協議会に参加し、防犯製品に関する情報収集、意見交換を行うとともに、警察学校における情報提供、セキュリティショー2024等への出展を行った。

⑤ホームページ、会報による情報提供

- ・JSDA会報の7月号及び1月号を発行した。
- ・ホームページ及びJSDA会報を活用し、事業報告、事業計画をはじめ当協会の活動の状況、業界に関連するトピックスなどの情報提供を行った。

⑥協会表彰

- ・優秀工事従業者11名、協会委員貢献者3名の協会表彰を行った。

⑦優秀施工者国土交通大臣顕彰、不動産・建設経済局長顕彰

- ・2023年度優秀施工者国土交通大臣顕彰に協会関係者4名、同青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰に協会関係者2名を推薦し、顕彰された。

⑧スチールドア全国研修会の開催

- ・一般社団法人日本サッシ協会との共催で、2023年度のスチールドア全国研修会をWEB開催した。

⑨シャッター施工に関するテキストの刊行

- ・シャッター施工に関する総合的なテキスト「重量シャッターの施工の実務」を刊行した。

3. 評定登録講習事業

(1) 所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録等

①遮炎遮煙性能に関し国の認定を受けた構造方法(CAS)の使用承認

- ・遮炎遮煙性能に関し、国土交通大臣より認定を受けた構造方法(CAS)の使用承認を行っている。

CAS0257：使用承認登録済 23 社

CAS0258：使用承認登録済 17 社

- ・顧客ニーズの多様化等に対応するため、新たなCASの認定取得に向けた取り組みを進めた。

②連動機構・装置等の自主評定

- ・一般社団法人日本火災報知機工業会及び日本防排煙工業会と合同で、連動機構・装置等の自主評定を行った。

型式承認：1 件（危害防止用連動中継器 1 件）

型式更新：4 件（自動閉鎖装置 4 件）

軽補正：1 件（自動閉鎖装置 1 件）

認定累計：65 件（自動閉鎖装置 52 件、危害防止用連動中継器 13 件）

連動機構・装置等自主評定委員会（委員長：奥村克夫 芝浦工業大学名誉教授）の開催：4 回

③防犯性能の高い建物部品の自主評定

- ・防犯性能の高いシャッター、ドア等の自主評定を行った。

型式承認更新：5 社 10 件（ドア B 種 2 件、窓シャッター 1 件、重量シャッター 0 件、軽量シャッター 3 件、OHD3 件、スイッチボックス 1 件）

型式承認累計（販売終了品等を除く。）：130 件（ドア B 種 88 件、窓シャッター 9 件、重量シャッター 8 件、軽量シャッター 16 件、OHD3 件、スイッチボックス 11 件）

防犯性能の高いシャッター・ドア等自主管理委員会（委員長：小出治 東京大学名誉教授）の開催：0 回

(2) シャッター及びドアの保守点検に関する人材育成

①防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習の実施

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習を実施した。

開催地	開催日	受講者数
東京	8 月 25 日、28 日	146 名
大阪	8 月 23 日	81 名
合計		227 名

②防火シャッター・ドア保守点検専門技術者の新規認定、資格更新

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者の新規認定、資格更新を行った。

新規認定：181名

資格更新：1,567名（非更新者：489名）

有効資格認定者：2024年3月末 6,724名

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定委員会の開催：1回

(3) 防火設備検査員に関わる講習の実施

①防火設備検査員講習における実技講習の実施

- ・防火設備検査員に関する講習の一環として実施する実技講習について、一般財団法人日本建築防災協会からの委託を受け、3地区で計6日開催した。

開催地	開催日	受講者数
東京	2月14日～16日	269名
大阪	1月24日、25日	114名
福岡	1月19日	57名
合計		440名

②防火設備検査員の実務能力向上のためのWEB講習の実施

- ・防火設備検査員を対象とした、実務能力の向上を図るための実践的なWEB講習を随時受付で実施した。

4. シャッター及びドアのストック対策の推進

- ・防火設備定期検査報告制度に関連し、防火設備検査員講習の一環として位置付けられた実技講習を一般財団法人日本建築防災協会から受託し、3地区で実施した。また、防火設備検査員を対象とした、実務能力の向上を図るための実践的なWEB講習を随時受付で実施した。
- ・前年度に引き続き、国土交通省と一般財団法人日本建築防災協会が設置した定期報告制度のあり方検討会に委員を派遣し、定期報告制度の見直しの議論に参画した。
- ・シャッター・ドアの適切な安全確保及び維持管理を呼びかけるチラシ・ポスターの作成、ホームページへの注意喚起事例の掲載を行い、点検の日（6月1日）、安全の日（9月1日）を中心に、定期的な保守点検の実施や危害防止装置等が未設置のシャッターの解消を図るための取り組みを進めた。

5. 技能検定制度導入への取り組み

- ・シャッターの施工品質の向上、人材の確保・育成等を図るため、シャッターの施工者を対象に、国家資格である技能検定制度の導入に向けた取り組みを進めた。継続して厚生労働省と協議を進めるとともに、先行する協会資格としてシャッター

- ・一施工技能者資格認定試験を開始した。
- ・シャッター施工に関する総合的なテキスト「重量シャッター施工の実務」を刊行した。

6. 浸水防止用設備の普及の推進

- ・浸水防止用設備建具型の施工基準を検討した。また、同パネル型の技術基準、設計基準を策定した。
- ・浸水防止用設備に関するポスター、リーフレットを作成し、4月を重点活動期間として、会員各社と連携して浸水防止用設備の普及のための取り組みを進めた。

7. 生産性向上に向けた取り組み

- ・シャッター・ドア業界の生産性向上のための主要な課題、重点的に取り組むべき分野等について検討し、関係委員会等において情報を共有した。
- ・その一環として、B I Mに関する連絡会議を設置し、情報交換、情報共有に努めた。

8. シャッター関連 J I S への取り組み

- ・一般社団法人日本サッシ協会と共同で、前年度策定した窓シャッター J I S 原案を基に、J I S 制定に向けた取り組みを進めた。
- ・オーバーヘッドドア J I S の改定に向け、原案作成委員会を設け、J I S 改定原案を検討した。

9. 会員サービスの取り組み

- ・賛助会員の技術・製品に関する説明会を4年ぶりに開催した。

10. 会議等の開催

(1) 総会：1回

2023年度通常総会 2023年5月23日（火）

於：ホテルグランドアーク半蔵門 「シンフォニー」

- ・2022年度事業報告、決算承認の件
- ・2023年度事業計画、収支予算の件
- ・2023年度協会表彰の件
- ・会員の状況の件

(2) 理事会：3回

2023年度第36回定例理事会 2023年4月28日（金）

於：ホテルメトロポリタンエドモント 「千鳥」

- ・2022 年度事業報告、決算の件
- ・2023 年度事業計画、収支予算の件
- ・軽量シャッター技術標準の制定の件
- ・シャッター施工技能者資格認定試験業務規程の改定の件
- ・シャッター施工技能者資格認定試験委員会規程の制定の件
- ・シャッター施工技能者資格認定試験委員選任規程の制定の件
- ・シャッター施工技能者資格認定試験秘密保持に関する規程の制定の件
- ・通常総会開催の件
- ・防火設備定期検査報告制度の件
- ・技能検定制度の件
- ・2023 年度協会表彰の件
- ・2023 年度主要会議等開催計画の件

2023 年度第 37 回定例理事会 2023 年 10 月 17 日（火）

於：ホテルメルパルク大阪 「ル・マノワール」

- ・2023 年度中間事業報告、中間決算の件
- ・鋼製建具・軽量鋼製建具技術標準の制定の件
- ・会員の入会の件
- ・技能検定制度の件
- ・防火設備定期検査報告制度の件

2023 年度第 38 回定例理事会 2024 年 1 月 16 日（火）

於：ホテルグランドアーク半蔵門 「トパーズ」

- ・技能検定における指定試験機関の指定申請の件
- ・技能検定（シャッター施工職種）試験業務規程の件
- ・シャッター施工職種指定試験機関技能検定委員選任規程の件
- ・シャッター施工職種指定試験機関技能検定委員会規程の件
- ・技能検定（シャッター施工職種）秘密保持に関する規程の件
- ・グリルシャッター技術標準の制定の件
- ・個人情報保護に関する不適切な取り扱いの件
- ・技能検定制度の件
- ・防火設備定期検査報告制度の件

（3）常任理事会：7 回

（6 月 29 日、7 月 20 日、9 月 21 日、11 月 22 日、12 月 21 日、2 月 22 日、3 月 21 日）

・理事会・総会事案

定例理事会開催の件（9 月、11 月、12 月、3 月）

中間事業報告の件（9 月）

2023 年度事業報告、2024 年度事業計画の件（2 月、3 月）

会員の入会の件（9 月）

鋼製建具・軽量鋼製建具技術標準の制定の件（9月）
 グリルシャッター技術標準の制定の件（11月）
 技能検定における指定試験機関の指定申請の件（12月）
 技能検定（シャッター施工職種）試験業務規程の件（12月）
 シャッター施工職種指定試験機関技能検定委員選任規程の件（12月）
 シャッター施工職種指定試験機関技能検定委員会規程の件（12月）
 技能検定（シャッター施工職種）秘密保持に関する規程の件（12月）
 2024年度会費改定の件（12月）
 個人情報保護に関する不適切な扱いの件（12月）

・運営関係

2023年度委員会構成の件（6月）
 2024年度主要会議等開催計画の件（2月）
 生産性向上に向けた課題や取り組むべき分野の件（7月、9月、11月）
 BIM連絡会議の件（11月）
 技能検定（シャッター施工職種）内部監査規程の件（12月）
 技能検定制度に関する件（6月、7月、9月、11月、12月、3月？）
 防火設備定期検査報告制度の件（9月、12月、2月）

・その他

弁護士からの照会の件（6月）
 通常総会懇親会の件（6月）
 安全の日ポスター&チラシの件（7月）
 2022年度労働災害発生状況調査の件（7月）
 2022年度重大事故発生状況の件（9月）
 防火設備定期検査状況調査報告の件（9月）
 スチールドア全国研修会の件（9月、12月）
 防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習会開催の件（11月）
 賛助会員の技術・製品に関する説明会の件（11月）
 優秀施工者国土交通大臣顕彰の件（11月、2月）
 技能検定の指定試験機関の役職員に対する罰則の適用の件（2月）
 2023年度協会表彰の件（3月）

(4) 運営委員会：11回

(4月11日、5月9日、6月13日、7月11日、9月12日、10月10日、11月14日、12月12日、1月23日、2月13日、3月12日)

(5) 基準委員会：3回

(6月27日、11月7日、3月18日)

(6) 常設委員会

業務委員会	8回	工事委員会	12回
講習委員会	12回	メンテナンス委員会	12回

連動機構等自主評定専門委員会	7回	品質・安全委員会	11回
管理調整委員会	11回	シャッター技術委員会	11回
耐火クロス技術委員会	11回	OHD技術委員会	11回
高速シート技術委員会	10回	窓シャッター技術委員会	10回
ドア技術委員会	12回	企画広報委員会	11回
浸水防止用設備委員会	11回	防火設備委員会	11回
技能検定制度化PT	12回		

(7) 第三者委員会

防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定委員会 (委員長：菅原進一 東京大学名誉教授)	1回
連動機構・装置等自主評定委員会 (委員長：奥村克夫 芝浦工業大学名誉教授)	4回
シャッター・ドア等安全対策検討委員会 (委員長：河野 守 東京理科大学教授)	1回
防犯性能の高いシャッター・ドア等自主管理委員会 (委員長：小出 治 東京大学名誉教授)	0回
シャッター施工技能者資格認定試験委員会 (委員長：河野 守 東京理科大学教授)	3回

11. 会員の状況

会員種別	2023年度末				2022年度末
	入会	退会	会員数	増減	会員数
第一種会員	0	0	14	±0	14
第二種会員	0	3	90	-3	93
準会員	1	2	27	-1	28
賛助会員	0	1	43	-1	44
合計	1	6	174	-5	179

2023年度の入会、退会状況

(入会)

準会員 : 有限会社アートシャッター

(退会)

第二種会員 : 株式会社亀谷
東邦工業株式会社
カネヤ工業株式会社

準会員 : 宇和断熱工業株式会社
三宮ビルメンテナンス株式会社
賛助会員 : 末栄金属株式会社